

百人一首 (うたばんごう 歌番号:81 ~ 85)

よもすがら
ものおも(も)
物思ふころは
あけやらで
明(あ)けやらで
ね(な)のひまさへ
閨(に)のひまさへ
つれなかりけり

しゅんえほうし
俊恵法師



ながらへば
またこの頃(ころ)や
しのばれむ
う(う)しと見(み)し世(よ)ぞ
憂(うれ)しと見(み)し世(よ)ぞ
今(いま)は恋(こい)しき

ふじわらのきよすけあそん
藤原清輔朝臣



よなか
世(よ)の中(なか)
みち
道(みち)こそなけれ
おも(い)い
思(おも)ひ入(い)る
やま
山(やま)の奥(おく)にも
しか
鹿(しか)ぞ鳴(な)くなる

こうたいごうぐうのだいぶしゅんせい
皇太后宮大夫俊成



おも(い)わび
思(おも)ひわび
さても命(いのち)は
あるもの(もの)を
憂(うれ)きに堪(た)へぬは
涙(なみだ)なりけり

どういんほうし
道因法師



ほととぎす
鳴(な)きつる方(かた)を
眺(なが)むれば
ただ有(あり)明(あ)け
つきの
月(つき)ぞ残(のこ)れる

ごたくだいじのきだいじん
後徳大寺左大臣



ねやのひま
さえつれな
かりけり

うしとみし
よぞいまは
こいしき

やまのおく
にもしかぞ
なくなる

うきにたえ
ぬはなみだ
なりけり

ただありあ
けのつきぞ
のこれる